老人クラブ きもちの元気袋

老人クラブの応援マーク

つながりを保つため 活動記録DVDを作成

全町民が避難する、福島県大熊町老連の活動

福島県大熊町は、福島第一原発事故のため全町民が避難、帰還の目途はたっていません。そのような厳しい状況にある大熊町老連の現在の活動を紹介します。

若手委員会が作成……

雪に覆われた道を一人のおばあさんが歩いています。仮設住宅では雪おろしの真最中。おばあさんが近づいて見守ります。

町老連若手委員会が作成したDVD「大熊町老連活動記録その1」の最初のシーンは今年の冬。この記録には、会津若松市内の四つの仮設住宅に入居している会員の様子、老連の活動記録が30分に編集して収録されています。

仮設住宅の集会所で手作り品を作る会員。ビデオを撮っている若手会員の「上手くできましたか?」の問いに「孫にあげます」と笑顔がこぼれました。

3月、全国から福島県老連を経由して届けられた元気袋の発送作業を会員が集まって行いました。会員約1000名は県内いわき市と会津若松市を中心に、他市町村や県外にも避難しています。そのため会員の皆さんに早く届けたいと思いながらも、居住地確認に思いのほか時間がかかりました。会長のメッセージも入れて、一人ひとり宅配便の宛名書きをして届けた元気袋。翌日より会員から「元気でやっているよ!」「大事に使います」とお礼の電話が届き、一年ぶりの近況報告に時間を忘れて話し込んでしまったと各クラブ会長から報告がありました。「元気袋をきっかけに多くの会員とのつながりが持てたことに、全国の老人クラブの皆様に心から感謝申し上げます」。

同月には会津若松市老連の芸能発表会に参加、また、震災後、グラウンド・ゴルフ大会に続く2度目の事業となる5月のウォーキング大会の様子も収められています。

会員のつながりを保つために……

町老連では、単位クラブ会長が集まる2月の定例会で、会員の連帯と組織再建につなげるため広報活動の強化を決め、若手委員会が担当することになりました。若手委員会（鈴木照重委員長）では、老人クラブの活動と会員の姿をDVDに撮って、離れ離れに暮らしている会員に届けることでつながりを保ちたいと考えて、この記録の作成を始めました。DVDは5枚複製して、3枚は巡回用、2枚は県老連と全老連に贈りました。今後も「その2」「その3」と続けていく予定です。

4月に開催した町老連総会では、半杭（はんぐい）和明会長が「皆で出来ることからやっていこう」と呼びかけて今年度事業を決定、一部事業は会津、いわきの両地区で開催することになっています。ここでも全国の老人クラブの力（救援拠金）が活かされます。